

三郷わせだ健康友の会だより



三郷わせだ健康友の会

友の会員「交流ハガキ活動」 あなたの思いをお書き下さい

コロナウイルス感染危機のなか、会員の皆さまはいかがお過ごしですか。

三密を避ける生活は、友の会が大切にしてきた仲間同士の交流を困難にしています。



幹事会はこの状況を打開するための方策について活発な議論をし、

「交流ハガキ活動」を展開することにいたしました。

「交流ハガキ活動」とは、同封のハガキに、

①コロナ禍のもとでの暮らしの模様や困っていること、工夫していることなど、②友の会でやれる活動、やってほしいことの二点について皆さまに自由に書いていただき投稿していただく事です。一行でも結構ですし、縦書き・横書きなど形式は自由です。皆さまからのご意見は、友の会の機関紙を使って会員間の交流に役立てていきます。以上が「交流ハガキ活動」です。会へのご意見は今後の活動に生かしていきます。ぜひ投函下さい。



会員交流が待たれます。写真上は19年10月バスハイク、下は12月クリスマス会

総会の延期について

三郷わせだ健康友の会

会長 新井 教代

五月十一日の幹事会ではコロナウイルス変異株が猛威をふるい、感染リスクが深刻な状況となっているなか、二〇二一年度の総会開催を一年延期することを決定しました。

友の会は、コロナ危機のなかでも密を避けたウォーキングや原水爆禁止世界大会・長崎デーオンライン視聴などに取り組みました。

しかし、昨年十一月末に実施した「ミカン狩り」以降は、多くの会員さんが楽しみにしていたバスハイクやクリスマス会の中止やむなさに至っています。

当面は、二〇二一年度の実施できなかった活動の再開をめざすとともに、コロナ感染危機のもとでも安心・安全な行事などが開催できるか等を模索していきます。なお、役員任期も一年延期します。

以上の事情をご理解いただき、ご理解いただきますようお願いいたします。

友の会行事などの予定

ウォーキング

六月二十七日(日)

八時半クリニック前集合

コロナ禍のなかでも友の会の行事として継続して実施できるようにするため、以下の点を守っていただくようお願いいたします。

①集合及び歩行時は、お互いに二メートル以上の間隔をあける。

②おしゃべりをなるべくひかえ、話すときも二メートルの間隔をとろう。

※当日は、密を避けるため、江戸川土手の南北の二つのコースに分け、時間をずらして出発します。

放射線から子どもたちを守る

三郷連絡会 創立十周年記念集会

六月十九日(土)十四時開会

文化会館 大会議室

記念講演 関東子ども健康調査

支援基金共同代表の二名の方、

東海第二原発運転差し止め訴訟

原告共同代表。

※原発と私達の暮らしとの関わり等を学ぶためにも是非ご参加下さい。

いま 医療が危ない!

緊急講演会

クリニクふれあい早稲田 鈴木 保弘

五月二十二日、三郷市文化会館大会議室にて、その法人医療制度研究会副理事長の本田宏先生を講師に、「いま医療が危ない！緊急講演会」が行われました(主催：三郷市社会保障推進協議会)。

本田先生は済生会栗橋病院の外科部長、副院長を歴任され、同時に二〇〇二年頃から長い間医師不足問題を各メディア等に発信して来られた方です。近年その内容は医療問題に限らず、政治、教育、歴史など広く深くなっており、ご自身でデータを分析し、グローバルスタンダードとの比較をする等、印象だけではない説得力のある主張が特徴です。お話も上手で、冗談も織り交ぜながら、わかりやすく、笑いが



講演する本田宏先生

絶えません。今年の三月二十四日には、衆議院厚生委員会にて、医師の働き方改革に関連して、参考人として発言もされていますが、そこでもいつも通りのお話で、周りの議員も笑みがこぼれていました。

今回の講演の内容も多岐にわたってありました。新型コロナウイルスに関しては、日本のPCR検査及び新型コロナウイルスの実施数が世界的に最低レベルであることの原因が、保健所や感染症病床を削減してきた政策や、医師不足問題と関連していることが分りました。日本の医師数は、二〇一八年時点でOECD平均と比較して約十三万人不足しているとのこと。感染症専門医や、集中治療専門医も不足し、専門医不在の感染症指定医療機関も多数存在するということ等を知り、現在の新型コロナ対策の遅れは当然の帰結と感じました。

命が軽んじられている

最近、菅政権による命が軽んじられるニュースが多く胸が痛む。二〇万の病床を削減する法案の強行成立。コロナ変異株が蔓延し病院に行けないまま自宅で亡くなる方が後を絶たないとい

うのに。五輪のために失う命が懸念されているなかで聞く耳持たない強行ありきの姿勢。入管施設でのスリランカ人女性の死亡が大問題になって初めて入管法改正案の成立を断念等々。

命を粗末にして恥じない政治の在り様は、突顔で安心して住みつづけられる街づくりをめざす友の会にとつては由々しき事態だ。四月末の国政選挙では野党共闘候補が三戦三勝、政治は変えられる、を実感した。十月までには実施される総選挙で菅さんに退陣していただく。(岡田 記)

「読んでみよう」(8)

〔雑草にも名前がある〕

草野双人著 文春新書 二〇〇四年刊

コロナの影響で定例のウォーキングの再開が待ち遠しいのですが、江戸川の土手には数々の雑草が生えていて健気に四季折々に花を咲かせています。エノコログサ・ヘクソカズラ・オオイヌノフグリ・ネジバナ・ハルジオン・ヒルガオ・ツククサ・カラスノエンドウ等々が、子供の頃には一度は見たり、聞いた事のある雑草が見受けられます。本には28種が故事・来歴や著者の思い出などが語られている楽しいエッセイ集です。

お勧め!



私の一押の花は「ネジバナ」(別名モジズリ・慕い草とも)で、四十年前程前にこの早稲田地区に移住し、土手を歩くようになりこの花を見付けこんなところにあると驚きました。良く眺めると小さな花が茎にねじれてらせん状に咲いていて、ねじれている方向が左右有りごく稀にねじれていないのが有ります。ラン科の多年草・日本古来のもの。但し環境が整わないと繁殖しないが、条件が揃うと群生します。著者もきれいなので鉢や庭に植えるが、ちっとも育たないと諦めて、俳人の滝野瓢水の手取るな やはり野に置き「蓮華草」と同じで「ネジバナ」の様な雑草は野に置くのが自然だと言う事の様です。ウォーキングが再開したら雑草たちの生き様を本を持って覗くのも良いのではないのでしょうか。(久々湊 記)